

③ 保護者が関係のない子供にまで「うちの子をいじめな。」と言う。

保護者Aさんから、自分の子供がいじめられているという訴えが学校に入っていた。学校で調べたが、特にAさんの子供がいじめられているという事実は浮かび上がってこなかった。

学校公開週間中の休み時間に、Aさんが同じ学級の子供に対して「うちの子供をいじめているのは、どの子なの？」と聞き回っていたので、近くにいた教師が丁寧に対応し、直接の子供へのかかわりはやめてもらった。

その後、Aさんが地域の公園や商店街などで、直接関係のない学年の子供に対して「あなたがうちの子をいじめていることは分かっているのよ。」「うちの子をいじめないで。」などと大きな声で言っているということで、他の学年の保護者から学校に苦情が入ってきた。

子供がいじめられていることを訴える保護者は、子供を守ろうと必死であり、そのため周囲からみると、行き過ぎた言動をとることがあります。それを一概に否定することはできませんが、そのまま見過ごすことで、かえって子供が周りから浮き上がってしまうことにもなりかねません。

一方、校外での保護者の言動にまで学校が責任を負うことについては問題があります。地域や関係機関との連携の中で保護者や子供を支えることを考える必要があります。

ヒント1 Aさんと子供との関係に着目する。

- ・ Aさんが自分の子供がいじめられているとして、同級生や他の学年の子供などに声を掛け続けている背景には、Aさんの不安が消えない状態が続いていることが考えられます。
- ・ 子供を取り巻く人間関係や、学習状況など丁寧に見ていく中で、Aさんが子供がいじめられていると不安になっている要因を探りながら、その要因を取り除くためにできることは何かをAさんと一緒に考えます。
- ・ Aさんと子供との関係についても留意が必要です。子供が学校での嫌な出来事を伝えることでAさんの関心を引いている場合もあります。逆にAさんが学校で嫌なことがあったに違いないとして子供から無理に聞き出している場合もあります。

ヒント2 学校としての対応範囲には限界がある。

- ・ 学級や校内でのAさんの言動については、学校としても受け止めたり、制止したりするなどの対応は可能ですが、地域の公園や商店街などでのAさんの言動については、学校が対応する範囲を超えています。
- ・ 他の学年の保護者からの苦情については、話を伺うことはできても、具体的にその場に行って対応することは難しいことを理解していただきます。
- ・ 校外でのAさんの言動については、Aさんとの面談の際などに話題にして、その言動が周囲に与える影響などを考えてもらうこともできますが、客観的に自分が見つめられない可能性もあり、さらに学校との関係が悪くなることも想定する必要があります。

ヒント3 関係機関との連携を考える。

- ・ Aさんの不安な気持ちや、他の子供に対する言動などをやわらげるために、スクールカウンセラーや教育相談室等と連携し、Aさんの話をじっくり受け止めてもらう時間を定期的に確保します。
- ・ 学校外での出来事については、あらかじめ最寄りの警察署の少年係等に相談をし、他の子供に対して詰め寄るようなことがあれば対応してもらうことも考えられます。
- ・ Aさんの地域を担当する民生・児童委員に協力を依頼し、家庭でのAさんと子供の様子を見守っていただくことを検討してもよいでしょう。

【学校の対応とその後の状況】

- ・ Aさんに来校してもらい、担任と養護教諭でじっくり話を伺った。Aさんは子供がいじめられていると思うと心配でたまらず、じっとしていることができないと言う。
- ・ いじめているだろうと思われる子供を見かけるとつい声を掛けてしまうとのことで、その子供がいじめていたかどうかは根拠がないようだった。
- ・ 養護教諭が、心配な気持ちは分かるが、声を掛けられた子供がいじめていなかったら、その子供はどう思うか、またその保護者はどう感じるか、そのことでAさんの子供は回りからどう見られるか尋ねたところ、Aさんは黙り込んでしまった。
- ・ 心配なことは学校に話してほしいと伝えると、スクールカウンセラーへの相談を希望したので、さっそく予約の手続きをとった。